

肥料価格高騰対策事業に係る地域特認メニュー「ソー1 乾土効果による基肥窒素減肥技術」について

宮城県農業再生協議会

このことについて、当該メニューを実施する参加農業者が下記を参考に施肥を行うことによって、当該メニューに取り組んだこととなりますので、御承知願います。

記

- 1 取組メニュー名
ソー1 乾土効果による基肥窒素減肥技術
- 2 内容
春期の水田土壌の乾燥程度によって土壌窒素発現量を予測し、基肥窒素を減肥する技術
- 3 令和5年度乾土効果
 - ・令和5年3月及び4月の降水量は「ほぼ平年並」（※1）と予報された。
 - ・令和5年度の乾土効果について平均値を使用すると、過去30年の3月及び4月の降水量平均値169.3mmとなる。
 - ・この値は150mmを上回っており、春季雨量による乾土効果の影響は小さいと見込まれる。
 - ・慣行の基肥窒素量に対する減肥量は、「ひとめぼれ」及び「ササニシキ」の場合、窒素成分量0kg/10aである（表）。

表 慣行の基肥窒素量に対する減肥量（窒素成分量 kg/10a）（※2）

	3・4月降水量(mm)				
	80	90	100	125	150～
ひとめぼれ	-1.0	-0.5	0	0	0
ササニシキ	-1.5	-1.0	-0.5	-0.5	0

※1 気象庁HP向こう3か月の天候の見通し東北地方（3月～5月）参照

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010200&term=P3M>

※2 普及に移す技術第80号「適正籾数を得るための春季雨量（乾土効果）に応じた基肥窒素の減肥量」参照